

2023 年度（令和 5 年度）

# 事業報告書



公益財団法人キープ協会

# 目次

2023 年度 事業計画の方針・重点項目 概況	3
.....	
公益Ⅰ. 環境保全及び環境教育の研究と教育・普及に関する事業	5
1. 環境教育	
2. 「～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」 指定管理業務	
3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務への貢献	
4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託	
5. 環境研究所	
6. 地域における環境教育事業	
7. 専門スタッフの育成	
公益Ⅱ. 高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業	8
1. 生産農場として	
2. 教育農場として	
3. 食育として	
公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を 提供する事業	9
1. 清泉寮	
2. 自然学校・キャンプ場	
3. ポール・ラッシュ記念館	
公益Ⅳ. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業	12
1. 国際交流事業	
2. 地域連携事業	
公益Ⅴ. 幼児の育成と子育てに関する事業(清里聖ヨハネ保育園)	13
1. 地域のニーズに合わせた子育て支援	
2. 保育の質の向上	
3. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続	
4. 自然のリズムを大切にした食事の推進	
5. 園舎内及び周辺環境整備	
6. 研修実施・視察受け入れ等を通じた人材育成	
7. 他部署(自然学校及び環境教育事業部)との連携	
8. 保護者や地域の方々との協働	
9. 卒園児のバックアップ	

---

収益Ⅰ. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等（製販事業部）	15
1. 収支動向	
2. 重点業務	
3. 通常業務	
4. 出張販売	
収益Ⅱ. 宿泊設備を使ったホテル事業	17
1. 清泉寮	

---

本部（管理部門）	18
1. 総務	
2. 経理	
3. 施設	
4. 企画	
5. 営業	

---

## 2023 年度 事業計画の方針・重点項目

キープ協会の従来からの取組みを改めて SDGs の視点で整理すると、まさに SDGs そのものである。全事業を支える自然環境を守ることで清里地域の観光事業や生活文化を持続可能なものにし、各事業が本業を改善し成長させることで、地域や世界の課題に向け持続可能な社会の実現へ貢献する。

### ■公益事業重点項目

#### 1. 教育機能の強化：

教育研修、環境教育、保育等を通じ、世代や立場を超えた人々のための学びの場を創出する。

#### 2. 農場機能の強化：

飼養管理と品質管理の向上のため、業務体制・方法を見直す。

高冷地酪農事業、希少なジャージー牛、有機 JAS 認定牛乳、ジャージー牛ファンクラブ、アニマルウェルフェア等について多くの人に情報発信する。

#### 3. 保育事業の強化

幼児の育成と子育てに関する事業活動をさらに活性化する諸施策を実施する。

#### 4. 地域社会への貢献：

研修交流、農場、保育園等の各事業及び地域との連携を通じて清里ブランディングに寄与し、地域経済・文化・社会の持続可能かつ健全な発展に貢献する。

#### 5. 人材育成支援：

環境教育、保育園、研修交流等の各事業を支えるスタッフの育成及び専門的なスキルアップを目指す人材への支援を強化する。

### 【収益事業重点項目】

公益財団法人としての活動を支える収益事業体制の見直し・強化  
アフターコロナ下の物価高・光熱費高騰に対応した収益体質への移行

#### 1. 業務フロー（仕組み）の改善と生産性の向上：

各事業において業務フローの見直し、DX 等による生産性の向上、付加価値の高いサービス・製品開発に取り組む。

#### 2. お客様を迎える態勢整備：

施設等の整備、環境プログラム・ジャージー牛ファンクラブの活動の充実と利便性の向上に取り組む。

#### 3. 関係部門の連携強化：

公益事業及び関係部門との連携を強化して、キープ協会全体が一体化した事業運営を目指す。

#### 4. 人材育成強化：

各スタッフのスキルアップを目的に、外部人材を登用し、職員教育、研修の実施・提供や人事制度の見直し等を行うとともに、職員が働きやすい職場環境作りに取り組む。

## <概況>

5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、学校団体・研修団体・合宿・立寄りバスツアー等の利用が昨年より大幅に増加した。また、各種イベントの再開やオンラインからリアルへの戻り等の動きも見られた。しかし宿泊者数や来場者数はコロナ前の8割台に留まる一方で物価や光熱費等の継続的な上昇、人手不足による人件費増加等のコストアップ要因による大きな影響を受けた。結果として、計画に対し事業売上は超過したもののCFでは大幅なマイナスとなった。引き続き厳しい環境ではあったが、これまで縮小を余儀なくされていた各種公益事業の再開・強化や新規取組みの計画・実行に注力した。

# 公益 I. 環境保全及び環境教育の研究と教育・普及に関する事業

## 1. 環境教育

環境教育研究と地域の自然情報・ヤマネの総合的な研究蓄積を基盤に、市民・学校・企業・行政など多様な主体との協働による環境教育事業及び環境保全事業を、清里及びその周辺地域・国内各地・国外で広く展開し、持続可能な社会実現に取り組んだ。

### (1) キープ・フォレスターズ・スクール

#### ① 役割

ESD・総合的な環境教育の推進、環境教育プログラムの提供及び研究・開発、環境教育ネットワークの支援、「インタープリター」の役割の普及

#### ② 重点目標

- ・新規ニーズの開拓
- ・全国各地でのアウトリーチ活動の充実
- ・森の多面的活用（ワーケーション、リトリート、森のようちえん等）
- ・自然×文化・歴史・暮らしのインタープリテーション

#### ③ 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施

#### (2023 年度主催事業の実績)

	2023 年度	2022 年度	増減
宿泊型環境教育プログラム	99 人／6 回	70 人／5 回	+29 人／+1 回
日帰り型環境教育プログラム	275 人／27 回	251 人／33 回	+24 人／▲6 回

#### ④ 受託事業

学校・企業・省庁・自治体等の受託事業を実施

#### (2023 年度受託事業の実績)

区分	対象	主な利用団体
清里でのプログラム	学校関係	山梨県内外小中学校・保育園、北杜市立甲陵中学校
	行政関係	北杜市、JICA
	一般	日本環境教育フォーラム、やまなし環境財団、ena
出張プログラム	行政関係	群馬県、山梨県、北杜市、青少年教育振興機構、三重県緑化推進委員会
	一般	サントリー、電源開発
合計	291 事業	

#### ⑤ 指導教育・人材育成

- ・職員のスキルアップのための研修実施
- ・1名の長期（11ヶ月）インターン生と、8名の短期インターン生（帯広畜産大学、都留文科大学、森林文化アカデミー）を受入れ
- ・JICA 日系研修にて約3週間9名の研修員を受入れ

### (2) 清泉寮やまねミュージアム

#### ① 役割

ヤマネの総合的な研究への協力・情報の蓄積、ヤマネ研究者とのネットワーク構築、森林生物多様性保全の提案への協力、環境教育・環境保全策の普及啓発

#### ② 重点目標

これまでの研究成果の教育への展開、プログラム化と地域への普及。研究を活かした教育事業の館内展示等で発信と情報蓄積。論文発表・学会発表・シンポジウムへの協力。オンライン館内ツアー等、コロナ禍の中で展開された新たな実践の普及

### ③事業計画

国内外での総合的なヤマネ研究・保護及び生物多様性研究の推進への協力。アニマルパスウェイの国内外の開発と普及への協力、国内外の研究者との連携・情報交換・共同研究、研究成果を活かした展示や環境教育プログラムの開発・実施、「やまねミュージアム」の管理運営、ヤマネ関連グッズの開発・販売、老朽化する建物の維持・管理・補修、ボランティアとの連携、全国各地での出張展示等

- ・「清泉寮やまねミュージアム」の管理運営

展示内容の更新、ビジターセンター関係者・中国/ブラジル自然体験指導者等の研修にて活用

- ・ヤマネの研究成果を活かした環境教育

北杜市立甲陵中学校「八ヶ岳南麓学」への協力、夏休みの自由研究応援等

(開館日数・入館者数等の実績)

	2023 年度	2022 年度	増減
年間開館日数	174 日	173 日	+1 日
入館者数	9,376 人	9,899 人	▲523 人
1 日平均入館者数	52.4 人	57.2 人	▲4.8 人
利用団体数	22 団体	22 団体	±0 団体
団体利用者数	1,626 人	1,673 人	▲47 人

## 2. 「～八ヶ岳環境と文化のむら～山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター」指定管理業務

### (1) 役割

自然環境に関する情報と学習の機会を提供することを通して、山梨県の良好な環境の保全と継承に貢献した。

### (2) 2023 年度の事業実績

主催事業の実施（利用者への自然解説業務、自然体験プログラム、セルフ型プログラム、講演会・企画展等の各種企画事業、館内展示、映像上映等）、施設及び設備の維持管理、利用促進業務、ボランティアとの協働、県内類似施設等との交流活動、自然調査、自主事業（環境教育関連書籍やグッズの販売）の実施

(開館日数・入館者数等の実績)

	2023 年度	2022 年度	増減
年間開館日	322 日	321 日	1 日
入館者数	75,454 人	76,520 人	▲1,066 人
開館（1994.11）以来の 総入館者数	2,551,899 人	2,476,445 人	
1 日平均入館者数	234 人	238 人	▲4 人
利用団体数	256 団体	228 団体	+28 団体
団体利用者数	11,593 人	11,169 人	+424 人
プログラム回数	537 回	490 回	+47 回
プログラム参加者数	21,877 人	23,025 人	▲1,148 人

## 3. 環境省日光国立公園「那須平成の森」運営管理業務への貢献

那須平成の森で開催された環境省主催人材育成セミナーに、職員が講師として参画した。各種環境教育資料の提供や山梨県での那須平成の森の広報活動を行った。

## 4. 山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定受託

山梨県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、次の事業を行った。

- (1) 地球温暖化の現状及び地球温暖化対策の重要性についての啓発及び広報活動  
オンラインでの普及啓発、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンターでの展示展開、  
パンフレット・教材の作成及び配布、子ども対象プログラム開催等
- (2) 地球温暖化防止活動推進員及び地球温暖化対策の推進を図るための活動を行う民間団体の  
活動支援  
やまなし環境教育ミーティングの共催、研修会 2 回実施、ホームページ・通信等での広報  
協力、脱炭素普及促進事業支援業務等
- (3) 日常生活に関する温室効果ガスの排出抑制のための措置についての照会、相談及び助言  
676 件対応（推進員・行政関係者・県民等）、山梨県委託事業：脱炭素普及促進事業支援  
業務の実施
- (4) 日常生活に関する温室効果ガス排出実態についての調査、分析への協力  
山梨県環境家計簿及び全国センターアンケートへの協力
- (5) 定期的又は時宜に応じた上記調査分析結果の提供  
問合せ時等随時の情報提供

## 5. 環境研究所

環境教育事業部の機能の 1 つとして、事業部横断的に研究活動を行った。

- (1) 環境保全研究  
主に清泉寮やまねミュージアムが担った（詳細は 5 ページ 1-(2) 参照）。
- (2) 環境教育研究  
リーフレット「食・農でできること ゼロカーボンチャレンジ」の編集を進め、山梨県内を  
中心に脱炭素関係機関等での発信を行った。また、キープの環境教育事業 40 周年のデータ  
編集を行った。

## 6. 地域における環境教育事業

地域有志と協働し、「森の学童」を実施した。また、山梨県や北杜市と協働し、地域住民に対する  
環境教育を行い、各種ネットワークへ参画した。具体的にはフォレスターズ・スクール事業にて、  
北杜市立全保育園・こども園での環境教育プログラム、市民対象の環境教育講座、市内高等学校・  
小学校での授業協力、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター及び山梨県地球温暖化防止活動推進  
センター事業として、県民対象のイベント、エコエネガイド等を行った。

## 7. 専門スタッフの育成

JICA 研修員の受入れ、日本インタープリテーション協会の人材育成計画への参画を行った。



## 公益Ⅱ. 高冷地での農業生産及び地域農産物の高付加価値化に関する事業

### ～ 地域農業の活性化 ～

#### 1. 生産農場として

- (1) 標高 1,250m～1,400m の高冷地、傾斜地で 2022 年度に引き続き飼育総頭数 90～100 頭（内訳：成牛 56、育成牛 22、哺乳牛 3、雄仔牛 19）、搾乳頭数は年間平均 47 頭、総生産量は 163,975 kg（出荷乳量 158,395 kg、哺乳量 5,580 kg）となった。  
また繁殖管理等の日常管理の技術的向上に取り組み、安心安全にこだわった有機 JAS 牛乳の生産を行った。
- (2) 粗飼料の完全自給を目指し、圃場（採草地 27.8 ha、放牧地 21.4 ha）整備の推進と共に、生産性の向上、環境整備（牧柵の整備等）に取り組んだ。
- (3) 牧草地に堆肥・尿等の散布を行い、循環型酪農を推進した。
- (4) 山梨県畜産課・畜酪総合センター・家畜共済と協力し、家畜衛生管理を徹底した。
- (5) 環境負荷軽減型酪農経営支援事業助成金を活用し、酪農に起因する環境負荷の軽減を図った。
- (6) 山梨県が創設した「アニマルウェア認証制度」の認証取得から 2 年が経過した。認証基準に基づいた飼養方針を紹介する山梨県畜産課によるツアーを 2 回行った。
- (7) 業務フロー（仕組み）の抜本的な見直しを行い、山梨県畜産課の補助金を活用してカウスカウトを導入し作業の効率化・飼養環境改善・品質管理の向上等に取り組んだ。
- (8) 自動搾乳機、自動運転トラクター等の活用を実証した。
- (9) 職員 1 人 1 人の経験に応じた酪農業務に関する知識・作業の向上に取り組んだ。

#### 2. 教育農場として

- (1) 新型コロナウイルスの影響により短期及び長期実習生、大学等の学生・研修生の受入れ制限を継続。
- (2) 学校及び企業団体プログラム 2 件実施
- (3) 他部署との連携強化により、一般来訪者から学校団体までを対象とした日帰り型・宿泊型の牧場体験プログラムを充実させた。
- (4) 施設見学や牧場体験プログラム等を多くの方々に広く提供し、「高冷地酪農」、「循環型酪農」、「ジャージー牛」、「有機 JAS 認定牛乳」、「アニマルウェルフェア」についての理解醸成を図った。  
農場内を紹介するために GW、夏季、冬季に実施したハイライド参加実績は 1,863 人／28 回。

#### 3. 食育として

- (1) 「食育」の一環として、清泉寮有機 JAS ジャージー牛乳の普及及び関連乳製品の開発、普及促進を図ると共に、ジャージー牛ファンクラブや収穫感謝祭等の活動の場を通じて情報を発信した。今期のファンクラブによるプログラムの参加実績は 147 名。
- (2) 「循環型酪農」の一環として、雄仔牛・交雑種の肥育、牛肉の生産を行い、施設内のレストラン等に食材として提供した。実績 37 頭。

## 公益Ⅲ. 青少年をはじめとする多様なコミュニティに対して体験・研修・合宿を提供する事業

～ 地域のランドマークとして地域活性化に貢献 ～

### 1. 清泉寮

研修宿泊施設、公益財団法人キープ協会の中核施設、地域のランドマークとしての役割を担い運営した。

- (1) 関係する行政機関の指導に沿った、利用者及び職員にとって安全安心、かつ消費エネルギーの削減など環境にも配慮した施設運営に努めた。
- (2) 下記利用実績の通り、教育旅行を中心に、研修等の各種団体の宿泊利用受入に努めた。
- (3) 手作り地域の良い旬の食材にこだわり、安全安心で美味しい食の提供を行った。
- (4) 宿泊者の付加価値を高めるため、清泉寮ジャージー牧場を活かした酪農プログラム付の宿泊プランや、八ヶ岳自然ふれあいセンターによる宿泊者向けの体験プログラムの提供を行った。
- (5) 地域を対象にした宿泊プランを販売し利用促進に努めた。また、地域住民や宿泊客を対象として、9月、12月、3月にコンサート運営を行い、地域・社会への貢献活動に努めた。

(団体利用実績)

	2023年度	2022年度	2019年度	増減(前年対比)
宿泊団体数	134件	105件	208件	+29件
宿泊団体利用者数	13,040人	8,344人	13,505人	+4,696人

### 2. 自然学校・キャンプ場

清泉寮自然学校（通年営業）及び清泉寮キャンプ場（夏季7月～9月営業）の2つの研修宿泊施設の運営を行った。

#### (1) 団体の受入れ

- ① コロナ禍で宿泊行事を休止していた団体（幼稚園、保育園から大学及び教会学校等）の利用再開に加え、新規及び小規模団体を積極的に受入れたことにより、下記実績のように利用者増につながった。
- ② 他事業の利用を促進（売店のソフトクリーム利用や記念館見学への誘導等）、法人全体の利用に繋がるように努めた。

#### (2) 自然体験プログラム

環境教育事業部と連携し、法人の敷地全体をプログラムフィールドとして、豊かな自然環境を活かしたオーダーメイドの自然体験プログラムを通年で提供した。

#### (3) 食育の推進

- ① コロナ禍の個別盛りの食事提供スタイルから、団体・主催キャンプともに従来のテーブルビュッフェ形式に戻し、自然学校が大事にしている3つの食事のポイント（仲間と分け合ってそれぞれにロスのない量を食べる、できるだけ地域の食材を使う、環境に配慮した片付けの方法）について宿泊者に対して常に説明を心掛けた。
- ② コロナ禍で休止していた食育プログラムを再開し、食べ物ができるまでの過程を体験することで食への関心を深めることができるよう努めた。

#### (4) 主催キャンプ

- ① コロナ禍で休止していた主催キャンプは、昨年度のトライアル実施を経て、今年度は通年で実施することができた。
- ② 団体受入れ数増に伴い、主催キャンプの実施回数は減少したものの、以下の取組みにより、一回あたりの参加者数は昨年度を上回る結果（2022年度23人→2023年度29人）となった。
  - ・ 従来からのリピーター参加者に加えて、新規申込者が参加しやすい取組みを構築した。
  - ・ 環境教育事業部と連携することによって、プログラムの内容を広げることができた。

#### (5) 施設整備

施設部と連携して計画的に修繕・整備を行い、安全な施設運営に努めた。

(団体利用実績)

	2023 年度	2022 年度	増減
宿泊団体数	149 件	87 件	+62 件
うち自然学校	131 件	75 件	+56 件
うちキャンプ場	18 件	12 件	+6 件
宿泊団体利用者数	7,500 人	5,791 人	+1,709 人

(主催キャンプ開催実績)

	2023 年度	2022 年度	増減
企画数	4 企画/19 回	4 企画/26 回	±0 企画/▲7 回
参加者数	564 人	599 人	▲35 人

### 3. ポール・ラッシュ記念館

公益財団法人キープ協会の創設者であるポール・ラッシュ博士の業績を広く紹介する仕組みづくりを進めると共に、法人の広報・教育機能の一端も担い活動した。

#### (1) 博物館業務

ポール・ラッシュの業績や歴史を紹介する通常の開館業務、ラッシュに関する資料のデジタルアーカイブ化作業の継続、収蔵資料や美術品の保存・管理業務、国内外でのラッシュ関連の資料の検索・発見・収集、ポール・ラッシュ邸の保存・活用を行った。

#### (2) 企画展

- ①10月：写真展 清里と僕。～小海線小淵沢⇒清里駅開業 90 周年によせて～
- ②10月～12月：エリザベス・サンダース・ホーム創立 75 周年・清泉寮創立 85 周年記念展  
「戦後日本に希望を灯したふたり ～澤田美喜とポール・ラッシュ 響きあう心～」
- ③12月～3月：県内社会福祉施設入寮者の作品企画展「青い鳥成人寮のうつわ」展

#### (3) 日本アメリカンフットボールの殿堂

日本アメリカンフットボール協会からの寄託資料管理・展示。来館者にアメリカンフットボールに触れる機会の提供、競技の普及活動。1月3日に東京ドームで開催された全日本選手権「ライスボウル」へ副賞提供、授賞式への参加。

#### (4) 広報活動

県・市や対外的な機関との連携、メディアや SNS を活用した。

#### (5) 教育普及活動

- ①「キリスト教入門」(4回開催)
- ②「ロザリオづくりワークショップ」(開館日)
- ③「お守りサンキャッチャーづくりワークショップ」(開館日)
- ④「古写真を用いたフットパス」(学校・企業団体に向けて開催)
- ⑤「ミュージアムツアー」(学校・企業団体に向けて開催)

#### (6) 他部署との連携

- ①公益Ⅲ 清泉寮・自然学校利用者の入館無料
- ②公益Ⅳ 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業のうち「1. 国際交流事業」  
(1)(2)(5)の協働におけるインターン生の受入れ<中止>
- ③「清泉寮収穫感謝祭」でパネル展示

#### (7) 地域貢献

- ①地域の博物館・美術館等が参画する八ヶ岳ミュージアム協議会の創設館として、地域ミュージアムとの連携を継続
- ②良質な文化を届けることを目的に、他部署と連携し、音楽会等を開催
- ③北杜市清里地域活性化委員会へスタッフ派遣
- ④北杜市内の小中学生の入館無料対応

#### (8) 受託事業

- ①立教大学全学カリキュラムにおける講義「立教学院とポール・ラッシュ」(春期)の兼任講師

- ②北杜市内小学校における道徳授業の講師
  - ③山梨近代人物館における講演「ポール・ラッシュの生涯」実施
  - ④日本聖公会信徒グループへの講演と執筆
  - ⑤日本聖公会横浜教区歴史編纂協力
- (9) 教育支援  
立教大学でボランティア活動を行う学生 3 名に、ポール・ラッシュ博士記念奨学金を給付した。

(開館日数・入館者数等の実績)

	2023 年度	2022 年度	増減
年間開館日数	292 日	280 日	+12 日
入館者数	7,283 人	7,281 人	+2 人
1 日平均入館者数	24.8 人	26 人	▲1.2 人
団体数	56 件	43 件	+13 件
団体入館者数	2,284 人	2,298 人	▲14 人

## 公益Ⅳ. 国際交流・協力及び地域社会の活性化に関する事業

～ 新型コロナで中断された事業の再開に向けて ～

### 1. 国際交流事業

「異なるものをつなぐ」「青年への希望」を軸に、国際交流を通じた青少年育成及び地域貢献を目指し、地域の学校や国内外の大学・NGO等の多様なコミュニティと連携しながら、事業内容の充実と発展に取り組んだ。

#### (1) ケンタッキー交流事業【北杜市受託事業】

北杜市とケンタッキー州との姉妹地域間交流事業の実施に協力し、代表団や青少年の派遣・受入事業等を通して、幅広い年齢層の友好親善と、ポール・ラッシュの理念の普及と継承を図った。

#### (2) 国内外のインターン生の受入れ

青年を受け入れ、青年の学びと実践の機会を提供し、ポール・ラッシュの理念の継承を図った。

①ケンタッキー州 ベリア大学学生 ポール・ラッシュ記念館 5月20日-7月20日

#### (3) 地域への国際理解プログラムの実施（通年）

地域の青少年育成と地域社会への貢献を図るため、環境教育、国際理解・英語教育等の分野で事業協力を行った。

##### ①地域での主催英語教育プログラムの提供

国際交流をキーワードに、地域の子どもから大人へ独自の英語教育プログラムを提供した。

##### ②地域の学校への協力

北杜市立甲陵高校等の地域の学校へ、文部科学省主管のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業等の「英語」「国際理解」のためのプログラムを実施し、青年の育成及び地域への貢献を図った。また、「公益Ⅰ.」で行う環境教育事業と連携し、さらなる教育効果の向上を図った。

#### (4) 絆プロジェクト【ピース・フィールド・ジャパン主催】への協力

例年、イスラエル・パレスチナ・日本の3地域の青年を受入れているが、今年度は新型コロナウイルス等の影響により受入れを中止した。

#### (5) 国際交流団体・公的機関との連携（通年）

山梨県国際交流協会、国際交流北杜地域連絡協議会等の諸団体との連携を図った。

～ 地域社会の健全な発展に貢献 ～

### 2. 地域連携事業

(1) 地域との連携とポール・ラッシュ精神の発信を目的に、「清泉寮収穫感謝祭」を開催した。

#### (2) 地域連携業務

①フードバンク山梨や北杜市社会福祉協議会等と連携し、貧困な環境に置かれた子供たちへの支援を行った。

②NPO 法人清里観光振興会に理事として関わり、組織運営に積極的に参画した。

③北杜市清里地域活性化委員会に委員として関わり、北杜市の地域活性に参画した。

④八ヶ岳観光圏事業や清里観光振興会等の地域各種団体・組織と連携し、歴史・文化・観光等の側面から地域連携を推進した。

⑤八ヶ岳音楽祭をはじめ、地域の音楽活動に発表の場を提供すると共に、活動を支援した。

⑥写真展・絵画展等の発表の場を提供すると共に、地域の芸術活動を支援した。

⑦地域団体と連携して美化・清掃活動を実施した。

⑧地元消防団、行政区、神社、警察関連機関等へ支援した。

## 公益 V. 幼児の育成と子育てに関する事業（清里聖ヨハネ保育園）

～ 育児・子育て支援を通じた「地域社会の健全な発展」に貢献 ～

～ 幼児の育成 ～ 幼児の主体性を大切に・豊かな感性を育む

「一人ひとりを祝福する保育」を保育目標に掲げ、「森の保育園」のコンセプトのもと、地域資源である豊かな自然環境を積極的に活かした保育活動に取り組んだ。また、地域に開かれたコミュニティセンターとして、地域における教育や子育てに関わる事業に積極的に取り組み、地域社会の持続可能な発展に貢献した。

### 1. 地域のニーズに合わせた子育て支援

認定こども園と事業所内保育所の2園間で密に連携することで保育の統一化を進めた。また、行政と協力して引き続き保護者のための子育て支援を行った。

#### (1) 認定こども園

教育・保育を一体的に行い、すこやかな育ちを支援

#### (2) 事業所内保育所

状況に応じて柔軟に対応できる仕組みを活かし、従業員および地域の子育てを支援

### 2. 保育の質の向上

#### (1) キリスト教保育

#### (2) 森の保育

#### (3) 野外活動におけるリスクマネジメント

#### (4) 各部門における理解

### 3. 「異年齢児保育」と「森の保育」の継続

(1) 一年を通して（雨の日や雪の日も）森に出掛け、季節の恵みを感じながらその時々に合わせての活動を行った。

(2) 3・4・5歳児は模倣や助け合いを目的に育ち合う場作りを重視して2つのグループに分けて活動した。更に今年度は時期に応じて複数回グループを作り替え、より各自の意欲や興味に合わせた活動が展開できるようにした。0・1・2歳児も年齢別ではなく、成長に合わせて2グループに分けての活動を行った。

### 4. 自然のリズムを大切にした食事の推進

(1) 自然のリズムに配慮した生産者への理解や旬の食材利用を心掛け、地域の生産者からの食材を購入した。

(2) アレルギー対応や月齢に合わせた食事の提供に配慮した。また、作って食べることの楽しさや大切さを味わうことを多く経験することができた。

### 5. 園舎内及び周辺環境整備

(1) 園舎内及び周辺環境整備→暮らしを豊かにするための長期的ビジョンの下、職員・保護者・地域の方々とともに計画的に行った。

(2) 業者や保護者と協働しながら「森庭」の整備を重点的に進めた。

### 6. 研修実施・視察受け入れ等を通じた人材育成

(1) 園内研修実施と園外研修への参加を進め、保育の質の向上に努めた。

(2) 感染症予防に配慮しながら、自然学校や清泉寮等と連携して各種保育団体や学校等の視察・研修等を受け入れた。

(3) 研究者との連携やフィールド提供を通して、広く幼児教育・保育に関わる人材育成に貢献した。

### 7. 他部署との連携

(1) 「森の楽童」の実施については環境教育事業部のレンジャーと協働して取り組んだ。自然学校とは、フィールドを共用し整備を行った。

8. 保護者や地域の方々との協働
  - (1) 「大屋根の日」「文庫活動」等地域の子育て支援を実施した。
  - (2) 幼児教育の向上を目的とする活動に対して園舎を提供し、保護者や地域の方々と共に創り実践を重ねた。
  - (3) 地域主催の「森の楽童」は年に12回行い、フィールドの貸し出しと人材協働を行った。
9. 卒園児のバックアップ
  - (1) 次世代の青少年育成支援のため、保護者主催の「卒園児キャンプ」への協力を行った。

## 収益 I. 自家製造食品及び地域特産品等の普及・販売等（製販事業部）

公益財団法人キープ協会が行う公益事業の経済的基盤を支えるため、様々な事業を行い収益の確保に取り組んだ。

### 1. 収支動向

（金額：千円）

収入部門	2023 年度	2022 年度	増減
売店	304,948	262,407	+42,541
ソフトクリーム	142,257	139,721	+2,536
飲食	72,413	70,626	+1,787
合計	519,618	472,754	+46,864

新型コロナウイルスによる影響が収まりつつあり、入込み客数の増加傾向が見られた。ただし、戻り足は鈍く、また団体客の入込みについては回復が遅れている。

各店舗では効率化を図る様々な業務改革に取り組んでおり、支出の抑制に成果をもたらした。

最終的に収入は前年比 109.9%という結果に終わった。

### 2. 重点業務

2023 年度における重点業務を以下の通り実施した。

- (1) POS システムによる詳細なデータ管理、またそれを利用した販売管理と仕入れ管理
- (2) オペレーションの効率化を図るため、ファームショッププレストランに券売機を導入
- (3) 店舗周辺を中心とした景観改善
  - ① 高原らしい景観を維持するための環境整備
  - ② 高冷地ならではのガーデン整備
- (4) 新店舗「ANNE OF KIYOSATO」の営業を開始
- (5) 各種商品開発
- (6) キープ内容単価の向上を図る、お客様の滞在時間延長化
  - ① 清泉寮ジャージーハットを中心とした各店舗間との連携
  - ② 複数店舗の利用促進
  - ③ 各種インフォメーションの充実
  - ④ ファームショップの子どもを対象とした取り組み

### 3. 通常業務

通常業務は以下の通り実施した。

- (1) 店舗運営（清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮ファームショップ・清泉寮新館売店）及び通信販売
- (2) 清泉寮ソフトクリーム及びジャージー乳製品の出張販売（別表参照）
- (3) 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- (4) 地元産及び県内産の果実を使ったジャムを自家製造
- (5) 「人と地球の健康」をキーワードとした食の安全と環境への配慮を考えたメニュー展開
- (6) 各種媒体及びメディアを活用した広報宣伝
- (7) POS システムと購買の一元化による徹底した仕入・在庫管理
- (8) 業務の効率化によるコスト削減
- (9) 各店舗間における職員・スタッフの柔軟なシフトによる人事の効率化



#### 4. 出張販売

##### (1) 実施 6 件

場所	事業名	期日
イトーヨーカドー アリオ葛西店	出張販売	3/29~4/10
東武百貨店 船橋店	にっぽんの味	11/2~11/8
羽村市富士見公園	はむら市民と産業のまつり	11/4~11/5
山梨県立美術館前広場	出張販売	11/19
京王百貨店 新宿店	元祖有名駅弁と全国うまいもの大会	1/6~1/15
東武百貨店 池袋店	47 都道府県 日本のグルメショー	2/29~3/5

##### (2) 実績

(単位：千円)

	2023 年度	2022 年度	増減
出張販売件数	6 件	10 件	▲4 件
ソフトクリーム売上	10,180	12,901	▲2,721
物販売上	2,297	2,788	▲491
合計 (税別)	12,477	15,689	▲3,212

## 収益Ⅱ. 宿泊設備を使ったホテル事業

### 1. 清泉寮

研修宿泊施設としての役割を果たすと共に、個人客の宿泊や食事、パーティーやブライダルなどの受入れについても積極的に行う計画を立てた。

- (1) ホテルシステムを導入したことで、予約状況・実績の迅速な情報共有及び各予約サイトとの連携が強化した。また業務内容の見直しを図り、宿泊手配や食事提供方法等について、効率的なオペレーションになるよう改善に努めた。
- (2) アンケートやオンライントラベルエージェントの口コミによるお客様の声を取り込み、施設やサービスの改善を行った。
- (3) 宿泊利用促進のためWEBの宿泊特設ページを高い頻度で更新し、魅力ある宿泊プランをアピールした。また季節ごとのポスターやチラシを作成し近隣施設に掲示・配布するなど、情報発信を積極的に行った。
- (4) 5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことに伴い、イベント、地元謝恩会・ブライダルの受入れを積極的に行った。
- (6) 地産地消やこだわりの食事提供をキーワードに宿泊者専用レストランの情報を宿泊プラン・WEB・チラシ・SNSを活用して積極的に行った。また、冬期にはフルコースディナーの特色ある食事提供を行った。

(個人利用実績)

	2023 年度	2022 年度	増減
宿泊個人利用数	22,834 人	25,749 人	▲2,915 人

## 本部(管理部門)

### 1. 総務

- (1) 理事会（年5回）、定時評議員会の開催等、法人の運営に関わる業務を行った。
- (2) 山梨県・北杜市等の行政、観光協会、地元企業等に対し、役員・関係部署との窓口となり各種業務を行った。
- (3) 職員採用活動、勤怠管理の効率化、寮・社宅・従業員食堂等の運営改善に取り組んだ。
- (4) 各部署と連携し、職員の研究業務のための情報提供・協力やフィールド提供を行った。
- (5) 業務支援 ICT ツールや情報共有ツールの導入・普及支援を行い、各部署のDXを推進した。

### 2. 経理

- (1) 法人の経営管理・決算業務（年次・月次）、日常の個別取引管理・処理業務、資金繰管理業務等を主に行った。

### 3. 施設

- (1) 法人の施設の維持、管理、修繕に係る業務を行った。
- (2) 施設の更新に関する意見具申を行った。

### 4. 企画

#### (1) 広報

キープ協会全体の情報を収集・管理し、WEB・SNSやプレスリリースなどの広報媒体による発信を行った。

- ① 清泉寮・キープ協会のWEBページの更新頻度と質を高め、WEBのビュー数増加に繋がる情報の発信管理を行うとともに、その結果を清泉寮の現場にフィードバックしながら実効性を高めた。
- ② 客室、レストランのメニュー、売店商品、体験プログラム、イベント、自然風景等の画像・動画撮影による素材の収集を一部外部のスタッフの力も借りながら行った。また、収集した画像・動画をカテゴリー別に整理し、有効な素材をライブラリーに集約することで、効果的な情報発信を行える環境を整備した。
- ③ 季節ごとの魅力を伝える画像・動画を作成し、WEBでの公開や、SNS（Facebook、Instagram、X、YouTube）を活用した営業情報、自然情報の発信を行った。
- ④ 営業、商品・サービス、プログラム・イベント、自然等に関する情報のプレスリリースをテレビ局、新聞社などのメディアに対して、積極的に行った。
- ⑤ 様々なメディアからの取材対応を積極的に行った。また、担当記者との関係性を深めることにより、取材機会の質・量の向上を図った。

#### (2) プロジェクト

キープ協会全体にまたがる以下のプロジェクトに関して、事務局機能を担った。

- ① 高冷地酪農事業及び乳製品の高付加価値化事業を強化するために立ち上げた事業応援の会員組織「清泉寮ジャージー牛ファンクラブ」の運営と管理を行った。
- ② 友の会組織（フレンズ・オブ・キープ）の会員獲得、管理、広報に関する業務を行った。
- ③ 関係先、取引先を対象としたギフト商品の販売促進にあたり、カタログ作成、集計管理業務を行った。
- ④ 「清泉寮収穫感謝祭」の実施にあたり、準備・運営全般にわたる事務局を担当した。

### 5. 営業

5月8日の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後には、新規および既存団体の問合せが増加し、旅行エージェントを中心に訪問して一般団体・企業団体への営業活動も行った。結果、コロナ以前の約8割から9割の水準までの回復が見られた。

- (1) 団体情報を一元管理するため、団体毎の詳細や比較対象となる数値の統一を行った。また、チャンネル別の集客情報を取得可能にした。

- (2) 問合せが回復した事をうけて、新規・リピーター利用に繋げる営業活動を行った結果コロナ以前の水準までの回復がみられた。
- (3) 宿泊団体は、募集型の団体が回復したが企業団体は回復しなかった。また、教育旅行については、約9割の回復が見られた。
- (4) 日帰りランチ団体は前年度比でも増加がみられ、コロナ前の水準を超える回復であった。
- (5) 売店・ソフトクリーム利用の日帰りバスツアーは、コロナ前の約8割まで回復した。
- (6) 各種パーティー（忘年会・新年会・謝恩会・ブライダル）は、謝恩会とブライダルを除き利用は無かった。謝恩会は3校の実施があった。ブライダルは、団体の回復によりスペース不足となり前年を下回った。

(利用実績)

	2023年度	2022年度	増減
一般団体(宿泊)	89件/4,106名	59件/1,716名	+30件/+2,390名
教育旅行(宿泊)	127件/13,105名	129件/11,725名	▲2件/+1,380名
ランチ団体(日帰り)	201件/7,231名	72件/2,259名	+129件/+4,972名
バスツアー	481件/29,193名	402件/22,922名	+79件/+6,271名
謝恩会	3件/216名	2件/107名	+1件/+109名
ブライダル	4件/188名	7件/395名	▲3件/▲207名